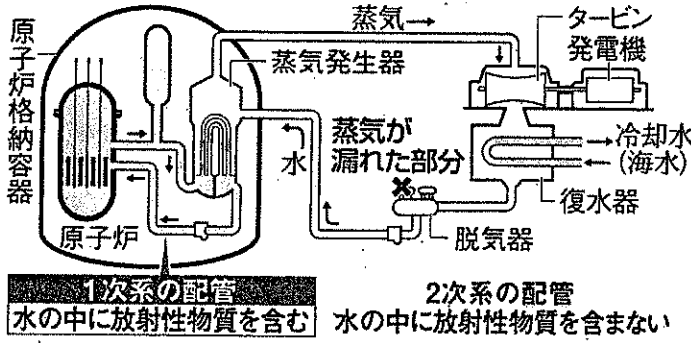


# 玄海原発蒸気漏れ

## 九電 3号機出力ゼロに

九州電力は31日、再稼働して出力を上げていた玄海玄海原発3号機のしくみ



原発3号機（佐賀県玄海町）の発電電を止め、原子炉の熱出力もゼロに下げた。30日夜、放射性物質を含まない水などが循環する「2次系」の配管の一部で微少な蒸気漏れが見つかったため。配管の熱が冷めるのを待って4月1日にも点検を行い、状況や原因などを調べる。発電再開のめどは立っておらず、5月に予定している玄海4号機の再稼働も遅れる可能性がある。

九電によると、周囲への放射性物質の漏れはない。発電電を止めたのは3月31日午前6時すぎ。原子炉

の熱出力も、同日午前7時15分にゼロにした。核分裂は続いており、原子炉は「起動中」の状態だという。

九電は、再稼働の工程での不具合を深刻度に応じてレベル0〜4の5段階に分け、レベル2以上は公表する。今回は点検のため発電停止が必要になるレベル3（2番目に深刻）にあたるとして公表した。

### 連絡に2時間

玄海3号機の蒸気漏れの連絡を佐賀県が九電から受けたのは30日午後9時ごろ。作業員が確認してから約2時間後だった。山口祥義知事は31日、「早めに空振りでもいいから第一報はほしい」と注文をつけた。

県原子力安全対策課によ

九電によると30日午後7時ごろ、パトロールしていた作業員が蒸気漏れを目視で確認した。「脱気器」と呼ばれる部分で、蒸気発生器に送る水から、余計なガスを取り除く設備だという。玄海3号機は23日に7年3カ月ぶりに稼働。25日から発電電を始め、30日には出力75%に達していた。（高橋尚之）

### 知事「早めに」

ると九電からは31日午前、「1日から原因調査をする」などと報告があり、県側は連絡までの2時間について検証するよう申し入れたという。山口知事は「どういう理由で、どういう形で（蒸気漏れが）起きているのか、よく調査して頂く」と述べた。